阿蘇山の火山活動解説資料（令和８年 10 月）

福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山性微動の振幅は概ね小さな状態で推移しましたが、時々やや大きな状態となりました。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は増減が認められ、時々多い状態となりました。GNSS 連続観測では、2026 年５月頃から草千里を挟む基線及び広域の基線において、草千里付近の深部にあると考えられるマグマだまりへのマグマの蓄積を示唆する伸びが認められていましたが、８月頃から停滞しています。

火山性微動の振幅に変動が認められ、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は多い状態になるなど、火山活動は引き続き高まった状態であることから、中岳第一火口から概ね１km の範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

中岳第一火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

令和８年９月１日に火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）を発表しました。その後、警報事項に変更はありません。

○　活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図１、図２-①⑥⑧、図４）

中岳第一火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上1,000m（９月：1,000m）まで上がりました。17日の夜間に、阿蘇火山博物館の提供による火口カメラＡの映像で南側火口壁の赤熱を確認しました。監視カメラにより南側火口壁で赤熱を観測したのは、2026年６月30日以来です。

10月に実施した現地調査では、中岳第一火口内に灰色の湯だまりを確認しました。湯だまり量は、約６割と直近の観測値（８月：約６割）と比べて同程度でした。湯だまり内で高さ数m程度の小規模な土砂噴出を確認しました。

・火山ガスの状況（図２-⑤）

火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は、16 日に 3,200 トンと非常に多い状態、28 日に 2,700 トンと多い状態となりました。それ以外の期間では 1,200～1,500 トンとやや多い状態で経過しました（９月：1,000～1,800 トン）。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
次回の火山活動解説資料（令和８年11月分）は令和８年12月８日に発表する予定です。
資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、九州大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』及び『電子地形図（タイル）』を使用しています。

・地震や微動の発生状況（図２-②～④、図３、図５）

火山性微動の振幅は概ね小さな状態で経過しましたが、16 日 10 時頃から 12 時頃には中岳西山腹観測点南北動成分の１分間平均振幅が 2.0μm/s 程度とやや大きな状態になるなど、15 日頃から 17 日頃にかけて振幅の一時的な増大が時々認められました。

火山性地震の月回数は 5,046 回と前月（９月：3,694 回）より増加し、多い状態でした。孤立型微動は 6,480 回と前月（９月：5,517 回）より増加し、多い状態でした。

震源が求まった火山性地震は、中岳火口付近のごく浅いところから深さ０km 付近に分布しました。

・地殻変動の状況（図６、図７）

GNSS 連続観測では、2026 年５月頃から草千里を挟む基線及び広域の基線において、草千里付近の深部にあると考えられるマグマだまりへのマグマの蓄積を示唆する伸びが認められていましたが、８月頃から停滞しています。

・南阿蘇村吉岡の噴気地帯の状況（図８）

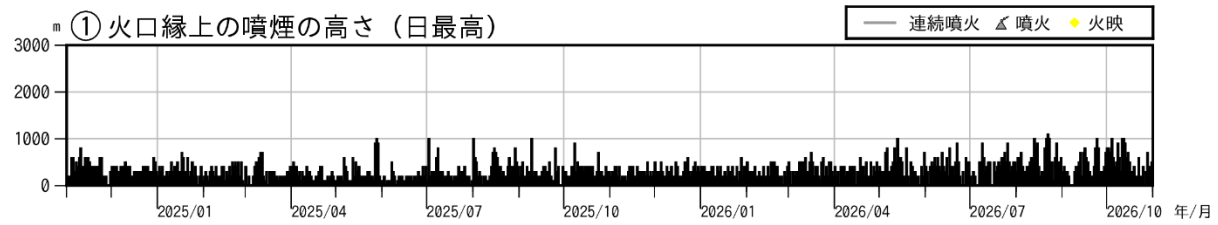
15 日に実施した現地調査では、前回（2026 年５月 12 日）と同様に噴気活動が続いていることを確認しました。

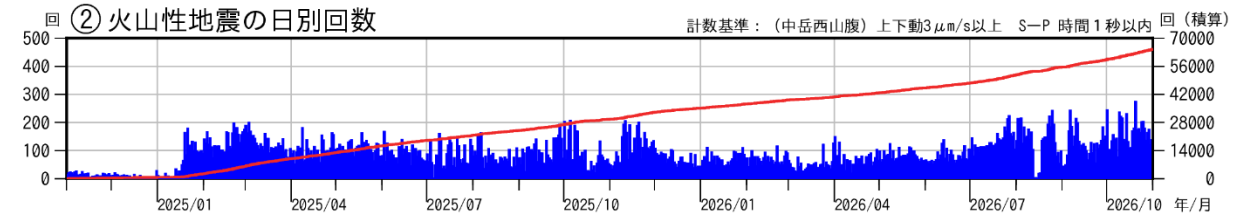


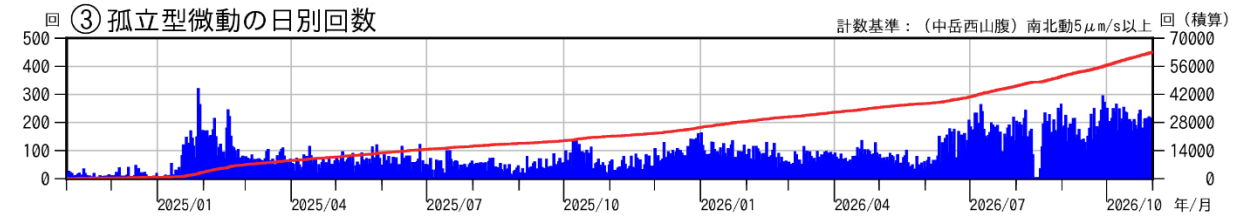


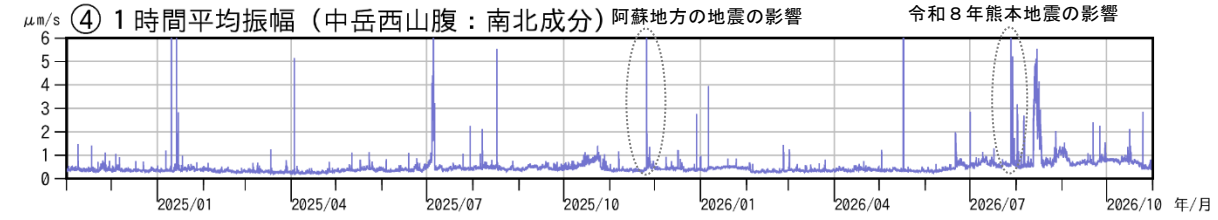
図１　阿蘇山　中岳第一火口の噴煙の状況と中岳第一火口南側火口壁の赤熱の状況
（左：10 月４日、草千里監視カメラ　右：10 月 17 日、阿蘇火山博物館の提供による火口カメラＡ）

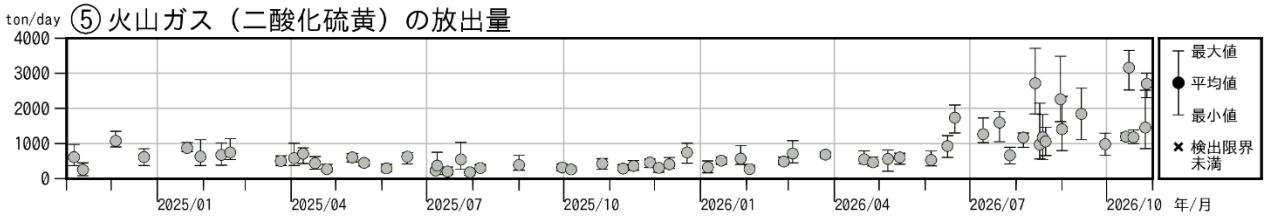
・白色の噴煙が最高で火口縁上 1,000m（９月：1,000m）まで上がりました。
・17 日の夜間に南側火口壁の赤熱を確認しました。監視カメラにより南側火口壁で赤熱が観測されたのは 2026 年６月 30 日以来です。

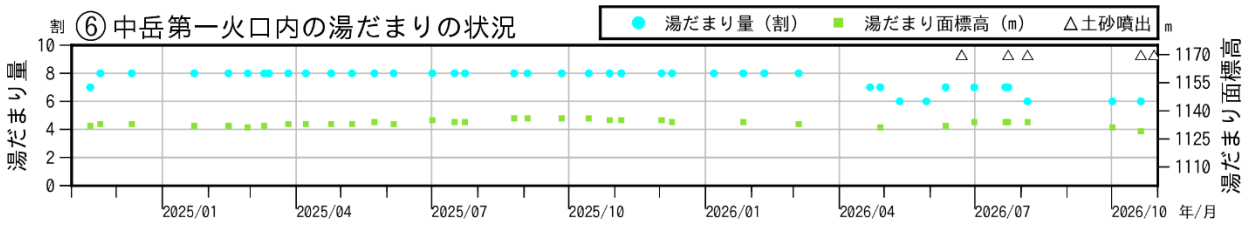

m
① 火口縁上の噴煙の高さ（日最高）
連続噴火 噴火 火映
3000
2000
1000
0
2025/01
2025/04
2025/07
2025/10
2026/01
2026/04
2026/07
2026/10
年/月

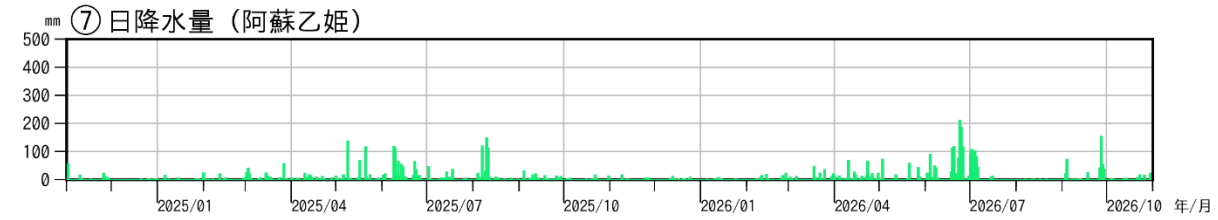

回
② 火山性地震の日別回数
計数基準：（中岳西山腹）上下動3μm/s以上 S−P 時間１秒以内
回（積算）
500
400
300
200
100
0
70000
56000
42000
28000
14000
0
2025/01
2025/04
2025/07
2025/10
2026/01
2026/04
2026/07
2026/10
年/月


回
③ 孤立型微動の日別回数
計数基準：（中岳西山腹）南北動5μm/s以上
回（積算）
500
400
300
200
100
0
70000
56000
42000
28000
14000
0
2025/01
2025/04
2025/07
2025/10
2026/01
2026/04
2026/07
2026/10
年/月


μm/s
④ １時間平均振幅（中岳西山腹：南北成分）
阿蘇地方の地震の影響
令和８年熊本地震の影響
6
5
4
3
2
1
0
2025/01
2025/04
2025/07
2025/10
2026/01
2026/04
2026/07
2026/10
年/月


ton/day
⑤ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量
4000
3000
2000
1000
0
最大値
平均値
最小値
検出限界未満
2025/01
2025/04
2025/07
2025/10
2026/01
2026/04
2026/07
2026/10
年/月


割
⑥ 中岳第一火口内の湯だまりの状況
湯だまり量（割）
湯だまり面標高（m）
△土砂噴出
m
湯だまり量
湯だまり面標高
10
8
6
4
2
0
1170
1155
1140
1125
1110
2025/01
2025/04
2025/07
2025/10
2026/01
2026/04
2026/07
2026/10
年/月


mm
⑦ 日降水量（阿蘇乙姫）
500
400
300
200
100
0
2025/01
2025/04
2025/07
2025/10
2026/01
2026/04
2026/07
2026/10
年/月

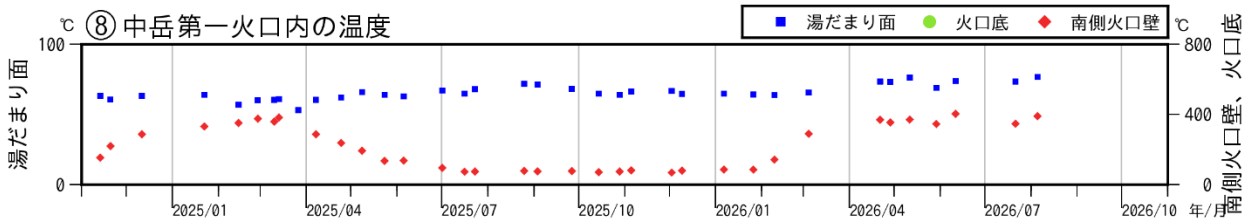

℃
⑧ 中岳第一火口内の温度
湯だまり面
火口底
南側火口壁
℃
湯だまり面
南側火口壁、火口底
100
0
800
400
0
2025/01
2025/04
2025/07
2025/10
2026/01
2026/04
2026/07
2026/10
年/月

図２（前ページ）　阿蘇山　火山活動経過図（2024 年 11 月～2026 年 10 月）

＜10 月の状況＞

・中岳第一火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上1,000m（９月：1,000m）まで上がりました。
・火山性地震の月回数は5,046回と前月（９月：3,694回）より増加し、多い状態でした。孤立型微動は6,480回と前月（９月：5,517回）より増加し、多い状態でした。
・火山性微動の振幅は概ね小さな状態で経過しましたが、16 日 10 時頃から 12 時頃には中岳西山腹観測点南北動成分の１分間平均振幅が 2.0μm/s 程度とやや大きな状態になるなど、15 日頃から 17 日頃にかけて振幅の一時的な増大が時々認められました。
・火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は、16日に3,200トンと非常に多い状態、28日に2,700トンと多い状態となりましたが、それ以外では1,200～1,500トンとやや多い状態で経過しました（９月：1,000～1,800トン）。
・10月に実施した現地調査では、中岳第一火口内に灰色の湯だまりを確認しました。湯だまり量は、約６割と直近の観測値（８月：約６割）と比べて同程度でした。湯だまり内で高さ数m程度の小規模な土砂噴出を確認しました。

赤線は火山性地震や孤立型微動の回数の積算（右軸）を示します。
火山性微動の振幅が大きく、火山性地震や孤立型微動の計数ができない期間があります。
⑤、⑥及び⑧は現地調査の結果を示しています。
⑥の湯だまり量及び湯だまり面標高は、火口縁からの観測で確認しています。
⑦はアメダス阿蘇乙姫（中岳第一火口から北西約８km）の観測値です。
⑧は火口南西側観測定点から赤外熱映像装置で計測しています。火口底温度は湯だまり表面と南側火口壁を除く火口内の温度を示します。

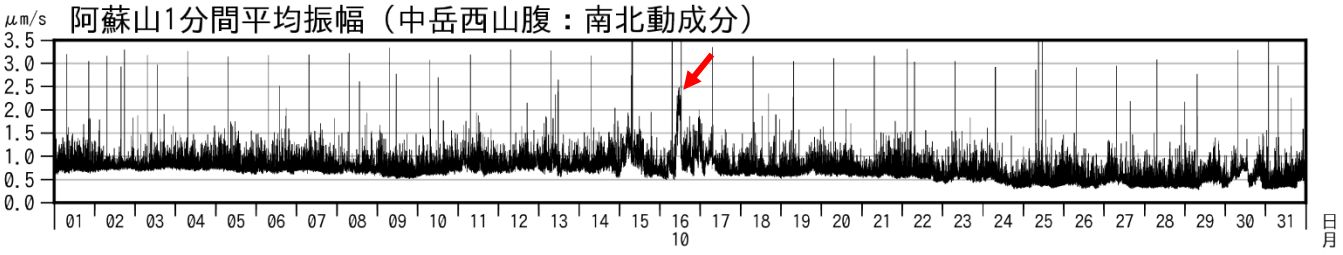


図３　阿蘇山　火山性微動１分間平均振幅
（中岳西山腹観測点南北動成分、10 月１日～31 日）

火山性微動の振幅は概ね小さな状態で経過しましたが、16 日 10 時頃から 12 時頃には中岳西山腹観測点南北動成分の１分間平均振幅が 2.0μm/s程度とやや大きな状態になる（赤矢印）など、15 日頃から 17 日頃にかけて振幅の一時的な増大が時々認められました。

１分間平均振幅で毎日 07 時 20 分頃にみられる振幅の高まりは校正信号によるものです。

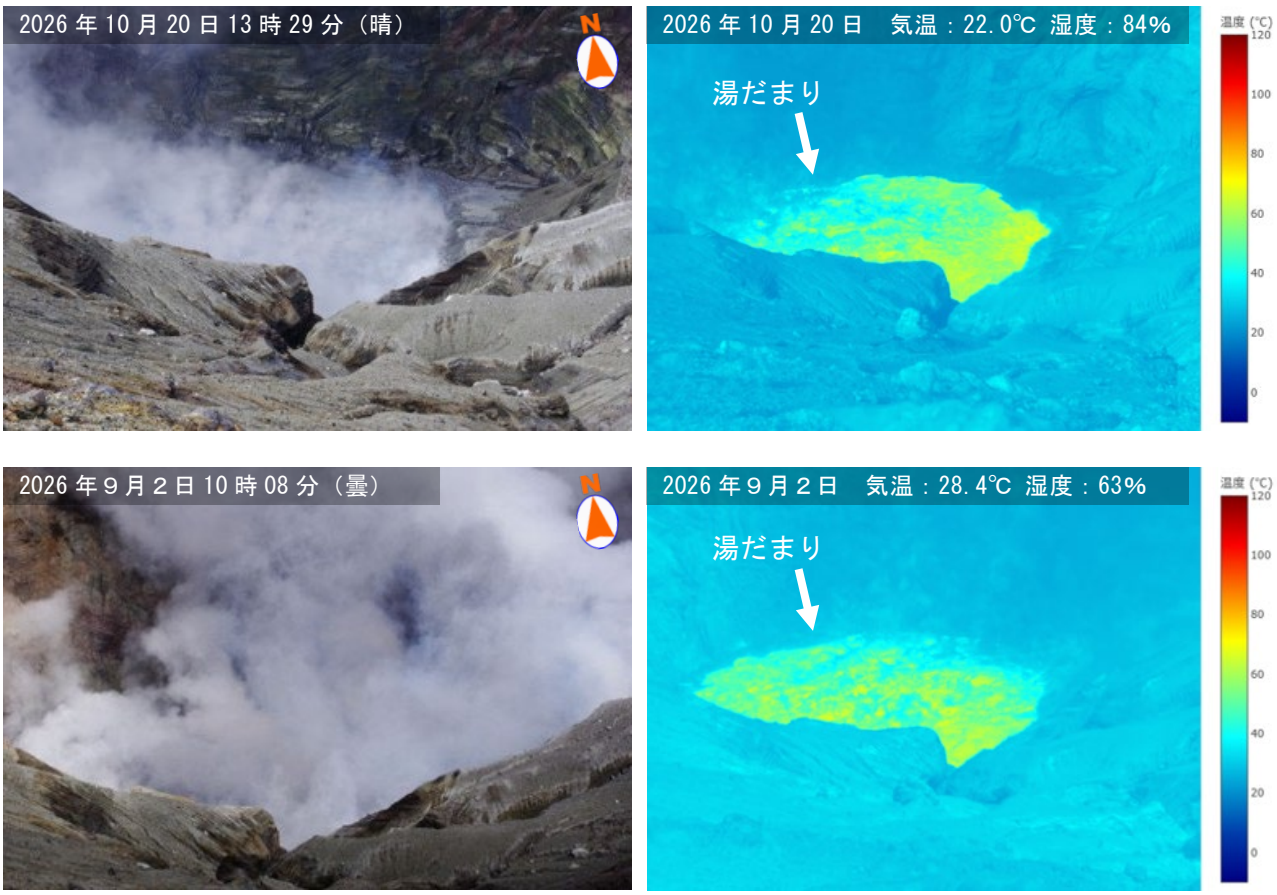


図 4-1　阿蘇山　中岳第一火口底の状況
（火口南側観測定点から撮影　上図：10 月 20 日、下図：９月２日）

・10 月に実施した現地調査では、中岳第一火口内に灰色の湯だまりを確認しました。湯だまり量は、約６割と直近の観測値（８月：約６割）と比べて同程度でした。
・湯だまり内で高さ数m程度の小規模な土砂噴出を確認しました。

※赤外熱映像装置で撮影した画像は、10 月 20 日は 13 時 18 分～23 分、９月２日は 10 時 17 分～19 分の複数の画像を合成し噴煙の影響を軽減しました。

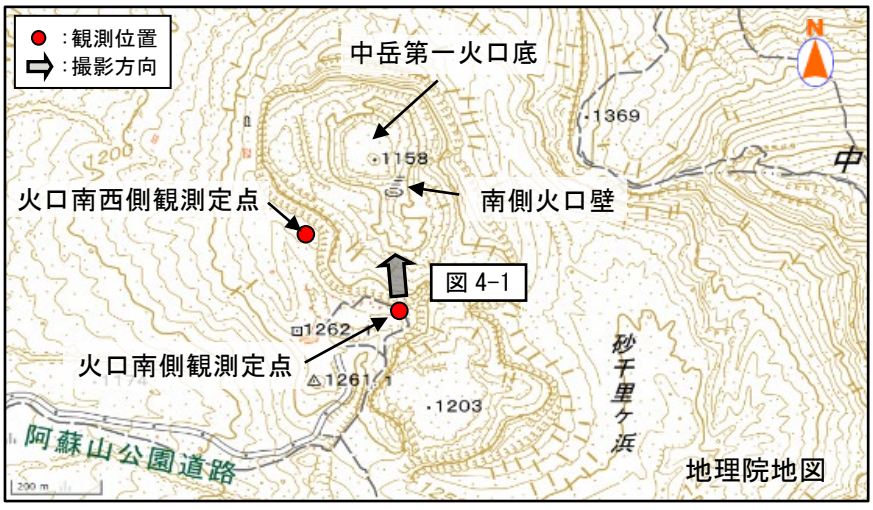


図 4-2　阿蘇山　現地調査観測位置図（観測位置及び撮影方向）

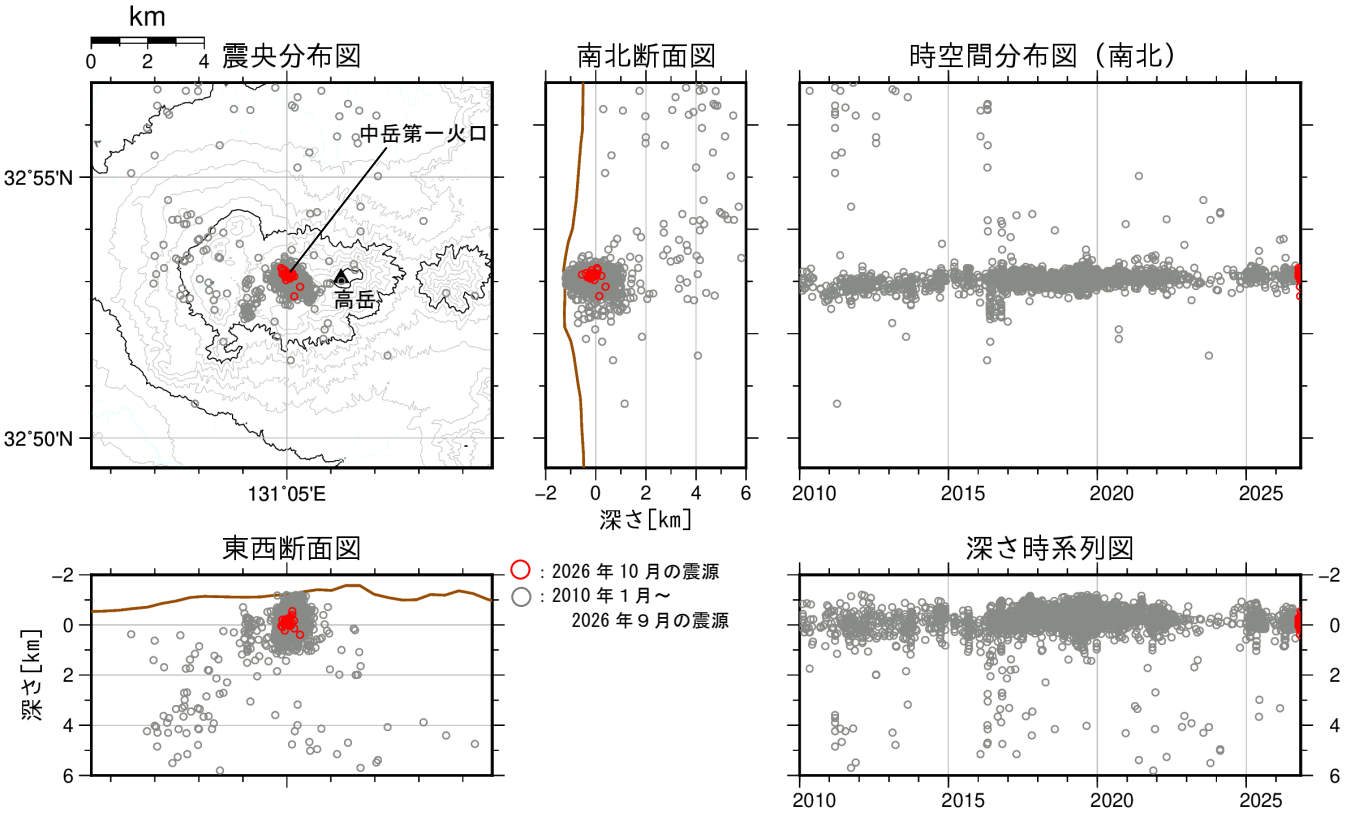


図５　阿蘇山　火山性地震の震源分布（2010 年１月～2026 年 10 月）

＜10 月の状況＞
震源が求まった火山性地震は、中岳火口付近のごく浅いところから深さ０km 付近に分布しました。

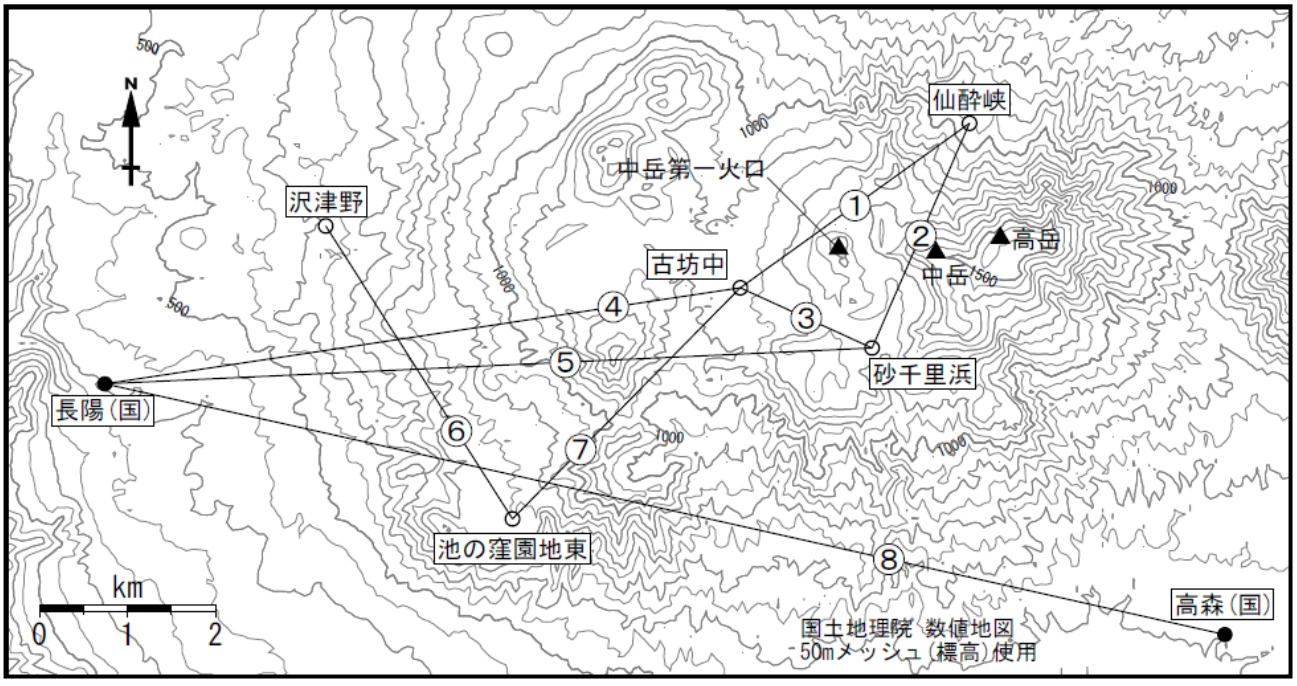


図６　阿蘇山　GNSS 連続観測点と基線番号

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院

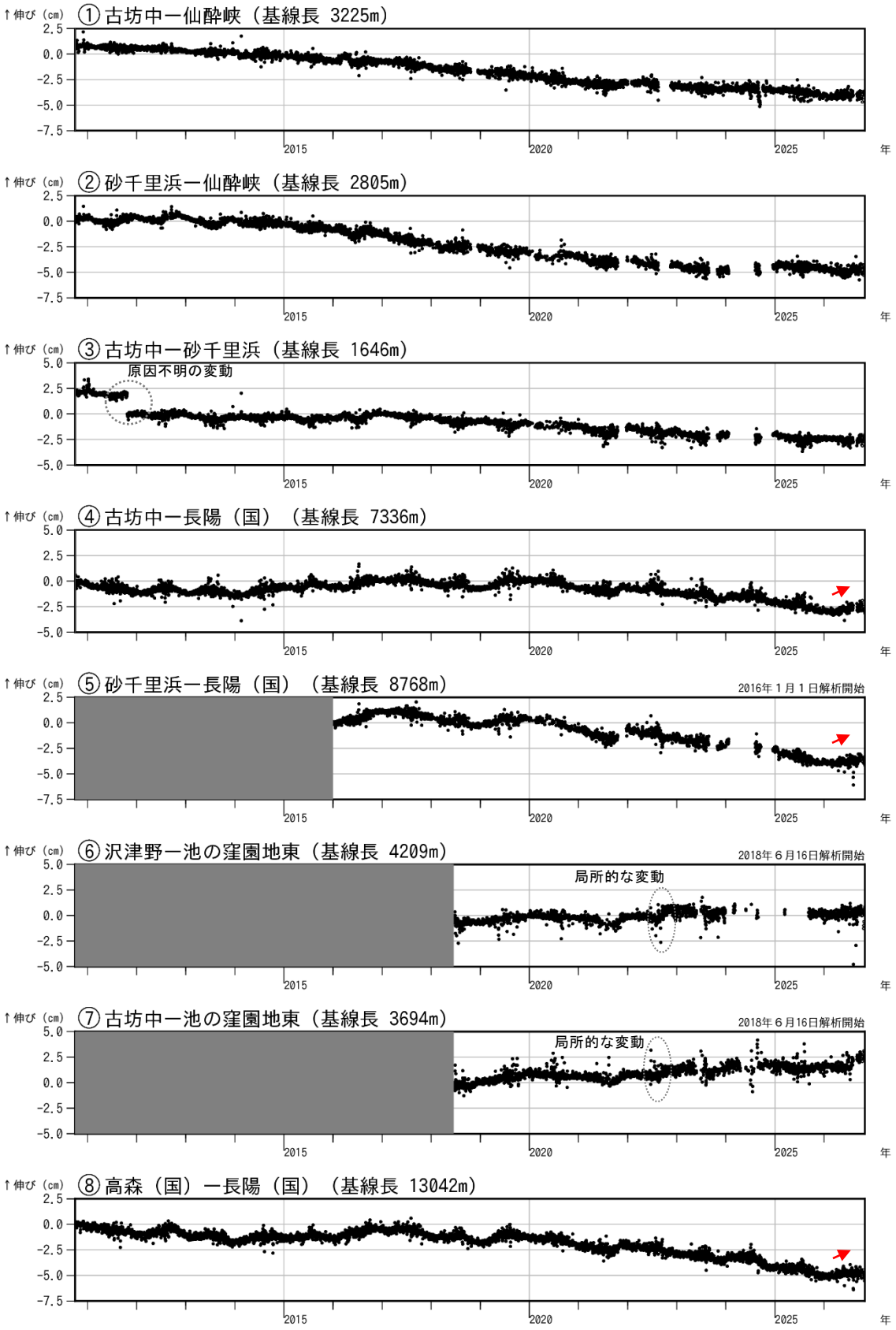


図７　阿蘇山　GNSS 連続観測による基線長変化（2010 年 10 月～2026 年 10 月）

GNSS 連続観測では、2026 年５月頃から草千里を挟む基線（④、⑤）及び広域の基線（⑧）において、草千里付近の深部にあると考えられるマグマだまりへのマグマの蓄積を示唆する伸びが認められていましたが（赤矢印）、８月頃から停滞しています。

これらの基線は図６の①～⑧に対応しています。基線の空白部分は欠測を示しています。

2016 年４月 16 日以降の基線長は、平成 28 年（2016 年）熊本地震の影響による変動が大きかったため、この地震に伴うステップを補正しています。

2016 年１月以降のデータについては、解析方法を変更しています。

（国）：国土地理院



図 8-1　阿蘇山　南阿蘇村吉岡の噴気地帯の状況（噴気地帯を南東側から撮影）

15 日に実施した現地調査では、前回（2026 年５月 12 日）と同様に噴気活動が続いていることを確認しました。

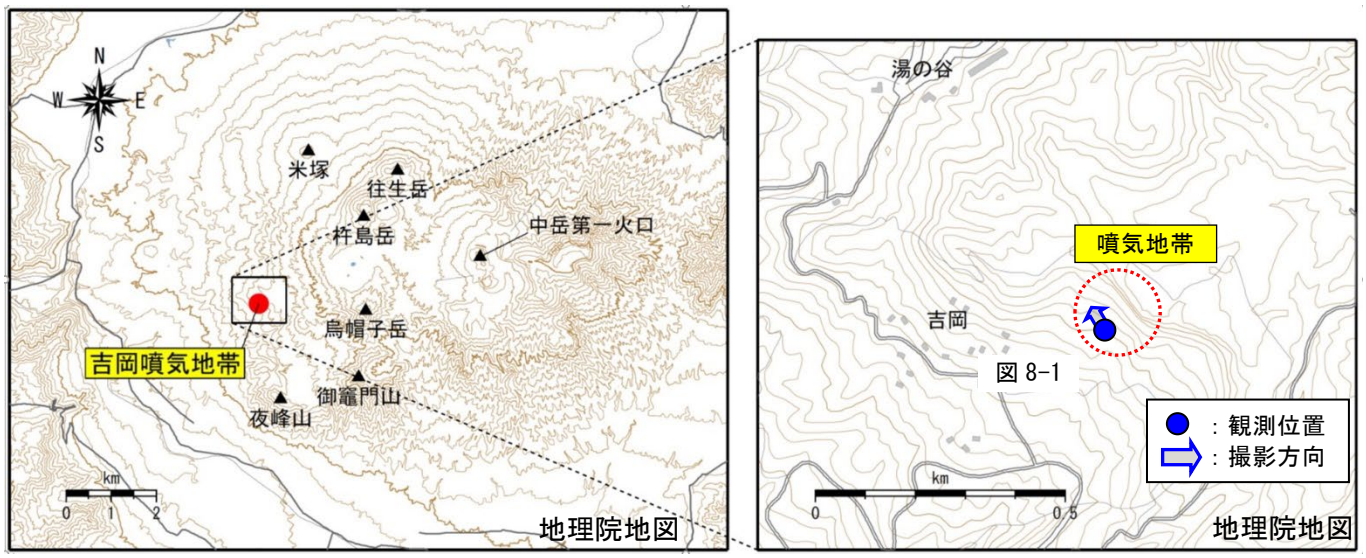


図 8-2　阿蘇山　南阿蘇村吉岡の噴気地帯の位置図

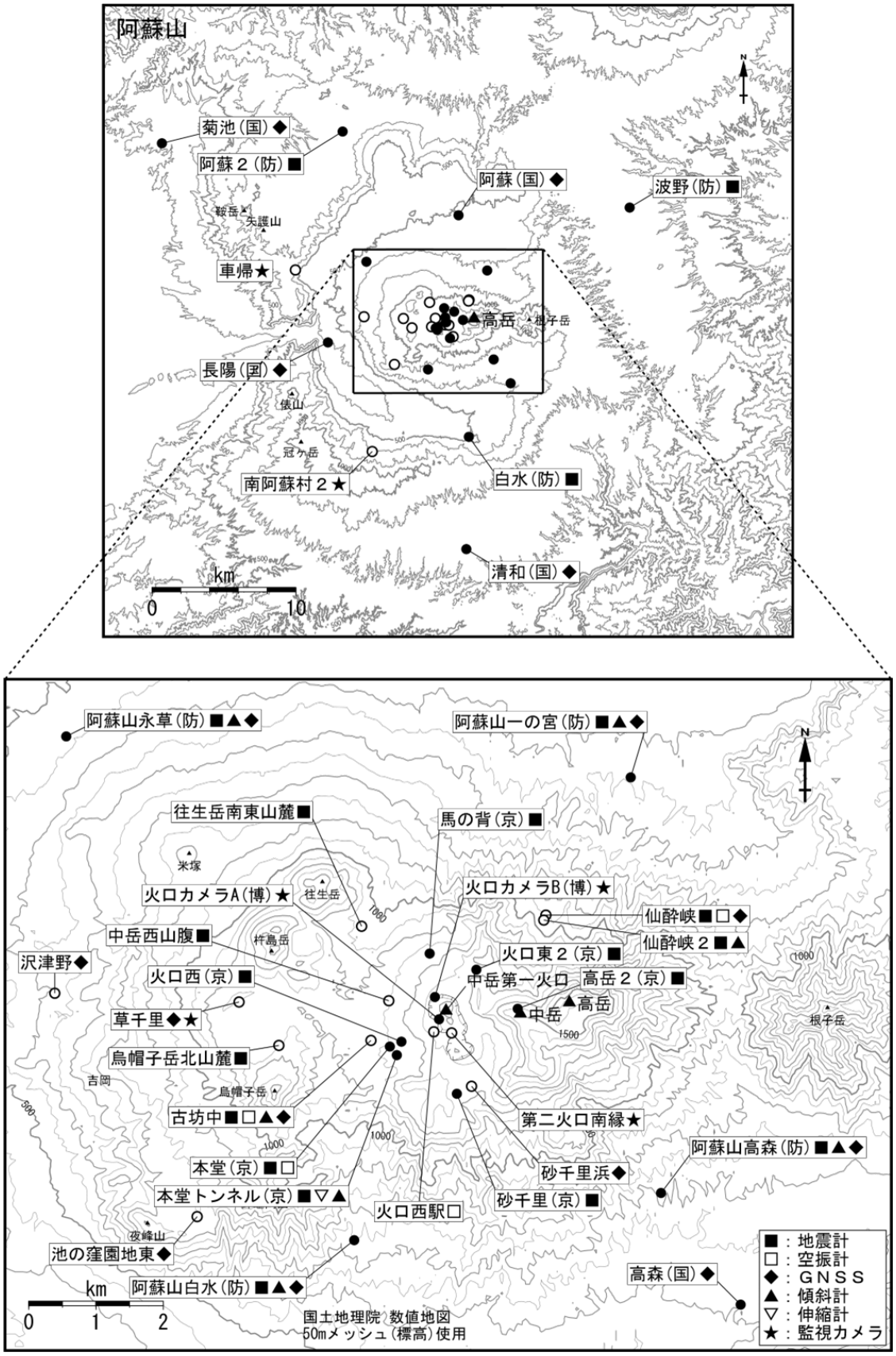


図９　阿蘇山　観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（京）：京都大学、（防）：防災科学技術研究所、（博）：阿蘇火山博物館、（国）：国土地理院